

8 林整森第 124 号
令和 8 年 10 月 14 日

里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金に係る
地域協議会 代表者 殿

林野庁 森林整備部 森林利用課長

里山林整備におけるクマ類による作業者等の人身被害防止の徹底について

平素より、里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金の適正な執行に御尽力いただき感謝申し上げます。

昨年度は、クマによる被害者数、死者数が過去最多となり、国民の安全安心を脅かす深刻な事態となったところですが、今年度もすでにクマによる死亡事故が 6 件発生しているところです。

これからの時期は、冬眠に備え餌を求めてクマの行動圏が拡大すること、今後、猟期に入ると林内の狩猟用わなで錯誤捕獲されたクマや捕獲鳥獣に誘引されたクマに遭遇する可能性も高くなること等、意図せずクマの行動圏に立ち入ってしまう危険があります。森林での作業等に従事する際は、足跡やフン等の痕跡の有無に注意し、鈴やラジオなど音の鳴る物やクマ撃退スプレーを携行するなど、遭遇リスクの回避と遭遇した際の対策に努めていただくとともに、また、追い払い等に当たり火薬類を使用する際には、火事等が引き起こされないよう、使用場所等に留意していただきますよう、貴協議会におかれましては、クマ類による被害防止の関連情報（別紙及び別添チラシ）もご活用の上、所管の活動組織に対し周知し、今一度強く注意喚起していただくようお願い申し上げます。

担当：林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室
山村振興指導班（直通 03-3502-0048）

【別紙】

- ・ 里山林での作業においては、クマ類との予期せぬ遭遇による事故の危険性があることを常に認識すること。
- ・ 行政が公開しているクマ類の出没情報等を十分に把握し、近隣でクマ類が出没している場合や、活動森林内におけるクマの足跡、フン等の痕跡が見つかった場合は、朝や夕方のクマ類の行動が活発になる時間帯の作業は避ける、一人での作業は控える、作業を中止する等の対応をとること。
- ・ クマ類との遭遇時の対応や、緊急連絡体制等について、作業に参加する者一人一人が確認しておくこと。
- ・ 活動中は、クマ鈴やラジオなどで音を鳴らしながら活動し、適宜クマよけスプレーを携行すること。
- ・ 活動中に飲食物を携行する場合は、蓋付きの容器を用いて匂いが漏出しないようにすること。また、飲食物は蓋付きの容器に入れたとしても活動森林に残置せず、必ず持ち帰ること。

〔参考〕

○環境省作成マニュアル「クマ類の出没対応マニュアル改定版」

<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/index.html>



○環境省 WEB サイト「クマに関する各種情報・取組」

<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>



皆さんの現場は、クマの生息域です。常に、近くにクマがいるかもしれないと注意しながら作業しましょう。

林業の現場では、特に**冬から春にかけて「巣穴付近での被害」が発生**しています。

**クマ類が生息している山林で作業する際は、
以下の事項について注意願います。**

- ① 単独行動を避け、鈴やラジオなど音の出るものを携帯し、人の存在を知らせてください。
クマ撃退スプレーの携行も推奨されます。
- ② 混合油などの燃料は、クマの誘引物とされています。
給油場所、保管場所では周囲に注意を払ってください。
- ③ 弁当等の食品管理を徹底してください。
※においの漏出を防ぐため、丈夫なプラスチックや金属製のフードロッカーの利用も検討してください。
- ④ 岩陰や乗り越える尾根の先などの見通しの悪い場所では、クマと突発的に遭遇する可能性があるため、手前で立ち止まって大きな声を出すなどにより安全を確認してください。
- ⑤ 冬から春先にかけては、倒木、岩穴や木の根上がり等の空洞といった巣穴（冬眠穴）として利用しそうな場所には、不用意に近づかないでください。

巣穴の例（撮影：佐藤嘉宏）



倒木の根元



樹洞



樹洞

「遭遇した場合」については裏面へ

詳しくは、環境省作成マニュアル

「クマ類の出没対応マニュアルー改訂版ー」を参照願います。

※クマ撃退スプレーは、有効成分・濃度、噴射距離・時間など性能差があるので確認して選んでください。

なお、製品の性能は、EPA（米国環境保護庁）に登録されたものが参考となります。



クマ類に遭遇した際にとるべき行動

(1) 遠くにクマがいることに気がついた場合

落ち着いて静かにその場から立ち去ります。

(2) 近くにクマがいることに気がついた場合

クマを見ながらゆっくり後退する、静かに語りかけながら後退する、など落ち着いて距離をとるようにします。

慌てて走って逃げてはいけません。

(3) 至近距離で突発的に遭遇した場合

攻撃を回避する完全な対処方法はありません。

クマは、顔面・頭部を攻撃することが多いため、両腕で顔面や頭部を覆い、直ちにうつ伏せになるなどして重大な障害や致命的ダメージを最小限にとどめることが重要です。

(4) 親子グマとの遭遇

子連れのクマと遭遇した場合、速やかにその場から離れることが必要です。

(5) クマ撃退スプレーによる撃退

クマの目や鼻・のどの粘膜にスプレーが当たるよう、顔に向かって噴射することが重要です。

射程距離は 5 m 程度と短い製品が多いため、十分クマを引き付けてから噴射する必要があります。

クマと遭遇した際の正しい対処法については、環境省作成マニュアル「クマ類の出没対応マニュアルー改訂版ー」等で確認ください。